

フィリピン

景気は持ち直し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 塚田 雄太
 E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

4～6月期の成長率は+5.6%

4～6月期の実質GDPは前年同期比+5.6%と、1～3月期(+5.0%)から持ち直しに転じた(右上図)。需要項目別にみると、輸出の減速が足かせとなったものの、個人消費や政府支出の拡大が成長率を押し上げた。

実質輸出は、景気減速が続く中国向け、ASEAN向けの減少が影響し、同+3.7%と1～3月期(同+6.4%)から大幅に減速した。一方、個人消費はインフレ率の低下や堅調な海外労働者送金の伸びが下支えとなり、同+6.2%と7四半期ぶりの高い伸びとなった。また、政府支出は、4月にアキノ大統領が予算執行を迅速化する大統領令を発令したことを受けて増加した。政府消費が同+3.9%と1～3月期(同+1.7%)から加速したほか、公共投資も粗付加価値(GVA)の公共建設部門が前年比で大幅プラスに転じるなど堅調に推移した(右中央図)。

年後半も、世界景気の減速が輸出を抑制するものの、低インフレの持続などを背景とした個人消費の堅調やインフラ投資などの政府支出の拡大から、景気は回復基調をたどると見込まれる。もっとも、1～6月の成長率が同+5.3%にとどまったことが影響し、2015年度予算案の政府目標(+7.0～8.0%)の達成は事実上不可能と思われる。

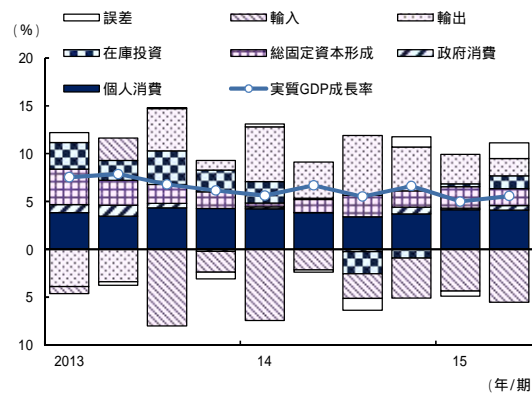
現政権下で国際競争力ランキングは大幅改善

景気が持ち直し基調にあるなか、16年5月に行われる大統領選後、新政権が現アキノ政権下で実施されたインフラ整備、汚職撲滅などの改革路線を維持するかを、外国企業は注視している。

世界経済フォーラム(World Economic Forum)が9月に公表した「国際競争力ランキング」においてフィリピンの順位は47位とアキノ政権発足時(2010年)の85位から大幅に改善した(右下図)。とりわけ、マクロ経済環境やイノベーションに関する評価ポイントが上昇した。

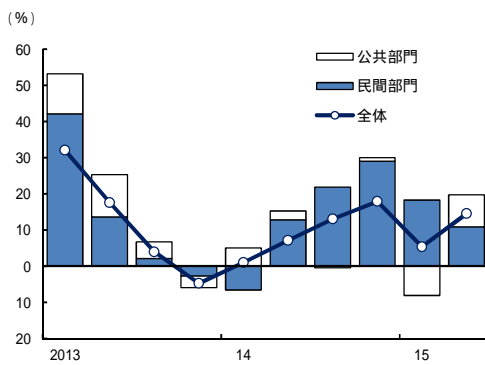
もっとも、インフラの未整備や官僚機構の非効率性など、改善すべき課題も依然として多い。外資誘致による経済発展を目指す同国において、こうした課題にどのように対応し、国際競争力を一段と上昇させるかが、今後本格化する大統領選において重要な争点の一つとなつてこよう。

< 実質GDP成長率と需要項目別寄与度分解 >



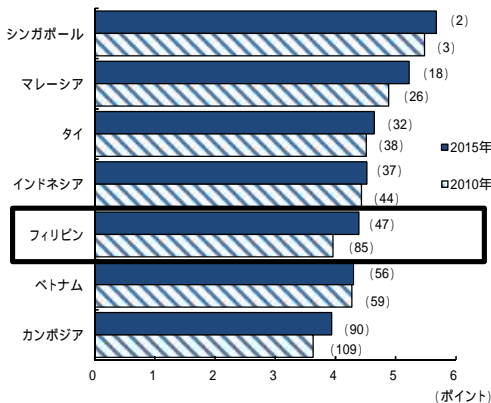
(出所) 国家統計調整委員会を基に日本総研作成

< 建設部門の粗付加価値と寄与度分解 >



(出所) 国家統計調整委員会を基に日本総研作成

< ASEANにおける国際競争力 >



(注) 棒グラフは国際競争力指数のポイント、括弧内の数字はランキングを表す。

(出所) World Economic Forum を基に日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。